

ゴク・ロデシェーラプ作 『書簡・甘露の滴』の新出版本

加 納 和 雄

長い年月をかけて醸成されてきた今日のチベットの仏教の中には、担い手を失って途絶えてしまった古い伝統の学知が、地層のように埋め込まれていることがある。その学知体系の本質を歴史的な観点から繙くには、現存する伝統と失われた伝統の両方を確認しておく必要がある。しかしゲルク派のように伝統が残っている場合は豊富な文献資料が伝存する一方で、カダム派のように教団としての伝統が途絶えた場合には多くの資料が散逸してしまっている。もし途絶えた伝統が、今日のチベット仏教に何ら痕跡も影響も残していないならば話は単純であるが、実際のところその伝統の学知体系は、現存する伝統の礎として、そのまま或いは発展的に組み込まれていることのほうが多い。

しかしどこまでの範囲の学知が失われた伝統に属し、どこからが現存する伝統において新規に改変や発展されたものなのか、その境目を見定めようとするとき、肝心の前者の資料が失われていては、検証する術はない。両側の資料が揃ったときに初めてその対照作業が可能となる。特にチベット仏教徒たちが、自らの手で著作活動を本格的に始動した（または再開した）11～12世紀頃の作品は、いまのチベット仏教の学問伝統の基層に位置するはずであるが、大半は散逸したと考えられてきた。かかる資料的制約によってチベットの仏教思想史研究の進展も阻まれてきたといえる。

ところが、2006年に刊行が開始されたチベット語古写本影印集である『カダム全集』が世に出ると、このような停滞した状況が一気に打破され始めた。同全集は、まさに空白となっていた11～12世紀のカダム派や関連の人物の著作を中心とする稀書群を、写本原本の影印というかたちで公開し、一次資料群を一挙に提供したのである。その後も全集は続刊され、現時点では全4輯、都合120帙になる。その多くはデブン寺の十六羅漢堂にあるダライラマ5世(1617

～1682)の私蔵図書館の蔵書である。そして同蔵書中の稀書は、彼が中央チベットの覇権を掌握した際、各地の諸派の古寺から回収したといわれる¹。

しかし中にはこの『カダム全集』に含まれずに別途伝存する、カダム派関連の稀書も存在する。例えば、今日のチベットの仏教思想の主流をなすチャンドラキールティの伝統の古層に位置する資料である、シャンタンサクパ作(12世紀前半)の『明句論疏』は、最近写本が確認され、吉水千鶴子らによって校訂研究がされつつある。また、プトウンのテンギユル目録の祖型とされたウーパ・ロサル(13世紀頃)による目録(古ナルタン寺蔵テンギユル写本目録)も、2種の異本が確認され、御牧克己らによって研究と校訂本が準備されている。このように『カダム全集』には収録されていない、関連の古写本はいくつか存在が確認されている。本稿で扱うゴク・ロデシェーラプ(1059～1109頃)の作品集の新出の写本および版本も、そのような資料のひとつである。

ゴク・ロデシェーラプは、チベット撰述の仏教書の著作を本格的に開始した世代に属する。彼の著作には、インド撰述仏典への注釈類のほか、独立作品である『書簡・甘露の滴』が存在する。本稿では、彼の作品を収めた新出の資料集成について予備的な報告を行ったうえで、そこに含まれる『書簡・甘露の滴』の新出版本の資料価値を検討し、その翻刻と和訳を提示する。

新出資料の概観

ロデシェーラプの著作は、その弟子トルンパのリストによると43点に上る。そのほかにも8点ほどの作品がロデシェーラプに帰されている。これら都合51点ほどのうち、現在発見されているものはわずか11点ほどに過ぎない(Kano 2016: 202–207)。

このたび確認された彼の新出の作品集は、5点の作品からなり、BDRC(Buddhist Digital Resource Center、旧TBRC)においてインターネット上に、フルカラーの画像のかたちで公開された²。rNgog Blo ldan shes rab gsung thor bu(ゴク・ロデシェーラプの小篇集)と題されており、都合524面(262葉)からなる。5点の所収作品は、すべて別々の写本および版本であり、それぞれの由来も現物の保存場所も目下、明かされていない。

結論を先取りすると、このうち3点は既知の文献であり、2点は別人の著作である可能性が残る。ただし既知の3作品のうち2点(『書簡・甘露の滴』および『究竟論要義』)は、新出の良質の異本であるため、今後の研究に資する

ところが大きい。

以下、これら5点の作品についてそれぞれ、題名、葉数、写本版本の別、そして字体について列挙して提示する。各作品の表紙頁、冒頭、奥書からの抜粋については、本稿末尾の【資料】を参照されたい。下記において葉番号の直後に丸括弧内に表記する頁番号は、上記画像データのそれを指す。

- (1) 『現観莊嚴論要義』（ゴク・ロデシエラプ作）、99 葉 (pp. 3 ~ 200)、木版本、ウチェン。
- (2) 『般若波羅蜜説口決現観莊嚴論注・明示灯』（dGe 'dun dpal bzang 編）、Kha 26 葉、Kha 30 葉、Nga 48 葉、Ca 20 葉 (pp. 201 ~ 387)。写本、ウチェン。
- (3) 『書簡・甘露の滴』（sPring yig bdud rtsi'i thig pa）（ゴク・ロデシエラプ作）、2 葉 (pp. 388 ~ 391)、木版本、ウチェン。
- (4) 『文字論・歡喜集成』（Yi ge'i bstan chos dga' ba kun 'dus）ほか、8 葉 (pp. 392 ~ 407)、写本、ウメ。
- (5) 『究竟論要義』（ゴク・ロデシエラプ作）、60 葉 (Ka ~ Hu, pp. 408 ~ 526)、写本、ウチェン。

(1) は Jackson 1993b によって出版された影印版と同じ版木による刷本である。同書には『カダム全集』に収録される写本も別途存在し、校訂本の制定が待たれる。

(2) は著者不明の『現観莊嚴論』の注である。末尾にロデシエラプの名が『現観莊嚴論』の訳者として言及されるが、本書の著者として言及されているわけではない。作品末尾に付されるウメ字体で記された回向文 (p. 386) によると、ゲンドウンペルサン (dGe 'dun dpal bzang) なる人物が本書を編纂した (sgrigs) とある。

(3) は『書簡・甘露の滴』の新出版本である（後述）。

(4) には、チベット文字に関する3点の作品が収録されている。第1の作品 (fol. 1b-5a2) は、ガワンタクパ (Ngag dbang grags pa) による『文字論・歡喜集成』（Yi ge'i bstan chos [= bcos] dga' ba kun 'dus）とある。トンミサンボータがインドで文字を学ぶ場面の描写から始まる。ソナムギェルツェンらによって懇請されて本書を著作したと奥書はいう。

第2の作品 (fol. 5a3-7a4) は、翻訳師 Ngag gi dbang phyug grags pa (上記のガ

ワンタクパのことか)による『文字口決概要』(Yi ge'i man ngag mdor bsdus)とある。冒頭ではチベット文字に関する祖師たち(Sambhoṭa, Khyung po g-yu khri, Li byung bdud rtsi, bDan ma pa 'phags)に言及する。

第3の作品(fol. 7a4-8b2)は、『竹ペンについて解説し明示する宝』(snyug bshad gsal byed nor bu)と題される、竹ペン(snyug gu)の材料や削り方などについて解説する著作であり、「ロデンシェーラブなる私が著作した」(blo ldan shes rab bdag gis sbyar)とある。ただしこの人物がゴク・ロデシェーラブを指す確証は得られておらず、同名別人の可能性も含め、検討を要する。なお、ロデンシェーラブには『正書法の要義』(9葉)なる作品が『カダム全集』に収録され、上記の作品との内容的な関係が予想されるが、この書についてもゴクの著作であるとは確定されていない。

(5)は『究竟論要義』の写本である。これまで同書の完本は、版本(Jackson 1993a)と写本とが各々1種ずつ確認されており、また不完全な写本は2種確認されている(Kano 2016: 241-246)。このたび新たに確認された写本は60葉からなり、欠落の有無などは今後検討が必要だが、分量もまとまっている。テキストは407頁から始まり、第1章は489頁まで、第2章は500頁まで、第3章は507頁まで、第4章は522頁まで、第5章は525頁で終わる。テキストの質も優れているとみられる。また、myiなど旧綴り字を残す点から、古い読みを保持している可能性も高い。末尾には『宝性論』の相承の系譜が追記される。本稿筆者は同書第一章の校訂本と英訳を作成したが(Kano 2006)、上記写本を校合本の一つとして校訂に組み入れた改訂版を準備している。フォリオ番号は、数字による表記ではなく、kaから始まりhuで終わる、チベット文字アルファベット表記で示される。

『書簡・甘露の滴』の新出版本

以下には、上記の(3)『書簡・甘露の滴』の新出版本について詳述したい。同版本は、2葉からなる完本であり、表紙に題名が記される。所々、紙の綻びた部分が別種の紙で補強されていることから、貴重書として扱われてきたことが窺われる。そして一部において行間や字間に小さなウメ字で補筆されている。同書には、これまで『カダム全集』に収録される写本1点が知られるのみであった。本稿筆者はかつて拙稿において、その写本と注釈3点および他書における引用などから異読を抽出し³、校訂本を提示し、和訳研究を行った(加納

2007、2009)。しかし、いくつかの読みには疑問が残り、末尾の偈頌の文字不足は未解決のままで保留していた。この度、この版本によってそれら疑問や不備はほぼ解決できることが判明したため、校訂本制定のためにも価値の高い資料であることが確認された。本稿では、版本の全文の翻刻を提示し、校訂本との異読を太字で明示したい。

『書簡・甘露の滴』の概要

『書簡・甘露の滴』は、ゴク・ロデシェーラブがツォンカ地方（青海省アムド地方湟中県）の僧伽に宛てた手紙である。その中では仏教の教えを、修行の順序に沿って、28の詩節で歌い上げる。構成は、冒頭偈、基礎修行（第3～9偈）、空性説（第10～20偈）、空性の修習（第21～23偈）、修行の結果としての仏の三身説（第24～27偈）、末尾偈から成る。本書は全体にわたって宛先人へ呼びかけの表現形式をとり、偈の末尾の語は命令形で終わることが多いため、弟子への教誡がその著作の主目的であったと考えられる。簡潔な韻文で綴られているものの、そこには巧みな比喻を交えたインド仏教思想のエッセンスが端的に織り込まれており、著者ロデシェーラブの文才と博識がいかに発揮されている。

本書は、アティシャが『菩提道灯』で示した、修行の次第書という枠組みを継承したものとみられ、やがてゲルク派へと継承される修行階梯に沿った仏教総論である「道次第」というジャンルの先駆的書物といえるかもしれない。書簡にて簡潔な道次第を綴るこのスタイルは、ロデシェーラブの高弟トルンパの『宝鬘五十頌』にも継承される⁴。

もうひとつの特筆すべき点は、本書がインドの仏典への注釈文献ではなく、独立した自著という点である。彼の著作のほとんどがインド仏典への注釈であるが、本書は数少ない貴重な独立書である。そこにはインドから仏教を導入しその体系化を試みた、11世紀、後伝期チベット仏教の形成期の高水準の学知が如実に反映されている。

『書簡・甘露の滴』の思想的典拠をインド撰述文献にたずねると、『中観心論』、『二諦分別論』、『入菩薩行論』にその多くが見いだされた。また第10偈には龍樹の論理書をダルマキールティの論理学的手法で理解すべき旨が説かれることから、ロデシェーラブの思想はバーヴィヴェーカ、ジュニャーナガルバ、シャーンティデーヴァ、シャーンタラクシタなどの立場に近いものであったと考

(62) ゴク・ロデシェーラブ作『書簡・甘露の滴』の新出版本（加納）

えられる⁵。

『書簡・甘露の滴』の新出版本の翻刻

以下に提示する新出版本の翻刻において次の記号を用いる。異読については翻刻の末尾に一覧として示した。偶頌番号は校訂本に準じ、丸括弧内に示した。

() 写本の読めない箇所（汚損箇所など）における本稿筆者による補語。
太字 校訂本（加納 2007）およびデプン寺写本との異読箇所

(1r) (表紙) || spring yig bdud rtsi'i thigs pa bzhugs so ||

(1v1) **rgya gar skad du || le kha a mri ta ti la ka nā ma kā ri ka ||**
bod skad du || spring yig bdud rtsi'i thigs pa zhes bya ba ||

'jig rten dbang phyug la phyag 'tshal lo ||

dad pa'i gzhi brtan 'dun pa'i rtsa ba bzung po can ||
sems pa'i rang bzhin bsam pa'i sdong pos rnam mdzes shing (||) (1v2)
sgrub pa'i me tog rab rgyas bsdu ba'i grib bsil can ||
gzhan don 'bras bu **dngar** ldan 'phags pa'i ljon tshogs khyed || (1)

rang bzhin mkhar gnas tshul min yid byed klus sprul ba ||
gti mug sprin tshogs chags pa'i klog gi phreng ba can ||
zhe sdang 'brug sgra chem chem sgrogs pa las 'thon pa ||
nyes spyod gnam (1v3) lcags 'bar bas phog par ma gyur cig || (2)

skye ba'i rjes 'ongs na dang rga ba'i mche rnon can ||
mi rtag lus **ldan** 'chi bdag srin po ltar 'ongs nas ||
ngan 'gro'i g-yang sa sdug bsngal mun chen mtha' yas par ||
skye bo'i tshogs 'di dbang med khrid ces nges par bsam || (3)

sdug bsngal mang ldan 'di 'dra'i (1v4) g-yang sa dran byas nas ||
 bag yod stobs skyed lus dang srog la mi phangs par ||
 nyon mongs dgra tshogs gzhom la lhod pa med yid kyis ||
 brtson pa'i go bgos bzod pa'i sran ni legs **gzugs** bya || (4)

'chi bdag dpung 'joms sdug bsngal rgya mtsho **skems** byed pa ||
 bde ba'i byung gnas rin chen byang chub (1v5) sems skyed de ||
 bdag don lhur byed srid dang zhi dga'i skye bo la ||
 dman par **bltas** nas snying rje'i yul du gnyis ka gzahg || (5)

thar pa'i khang **bzang** pha rol phyin drug them skas can ||
 bag chags spangs pa'i **dra** ba brtan pos yongs **bskor** ba ||
 ye shes rtsig pa gzhan don rnga sgras mdzes pa der ||
 bdag (1v6) nyid 'dzegs nas gzhan yang drang ba'i thabs la 'bad || (6)

sangs rgyas bstan pa sdug bsngal nad kun zhi byed pa'i ||
 bdud rtsi'i mchog 'di rnyed nas don med mi 'gyur phyir ||
 thub mchog **gis** bcas bslab gzhi rnams las mi 'da' bar ||
 brtul zhugs legs bsrung bshes gnyen bzang la rab brten (1v7) bya || (7)

chos spyod la brtson **zhi yid** gzhan phan lhur len pas ||
 'gro ba dad 'gyur dam pa'i spyod pa rjes su **bsten** || (8)

bshes gnyen sprin las legs byung mang du thos pa yi ||
 char rgyun bsil **ba** (→ bas) nyon mongs gdung ba zhi byed kyis ||
 bde gshegs snying po'i sa bon rab tu brlan byas nas ||
 sangs (2r1) rgyas yon tan phun tshogs lo **thog** rab rgyas bya || (9)

chos rnams rang bzhin stong pa'i tshul la 'jug pa'i sgo ||
 yang dag rigs tshogs klu sgrub zhal nas gsungs pa de ||
 rigs pa'i **dbang phyug** mam 'grel mdzad pa'i gzhung mdzes las ||
 gsal bar rtogs nas lugs ngan gzhan kun **rtswa** b(zhin dor ||)⁶ (10)

(2r2) paṅḍi ta zhes rab grags 'dir 'ongs phal cher yang ||
gzhung lugs mi mkhas rang gi ngan rtog gis khrid cing ||
mtha' gnyis la 'chel yang dag lam la sun 'byin pas ||
de dag tshig gis klu sgrub **kyis** bshad lam mi dor || (11)

don rnam rigs pa'i stobs kyis rnam 'gar gnas 'dod dang ||
'dus byas la(m 'das)⁷ (2r3) de nyid tshad **mas** nges 'dzin pa ||
gnyis ka dngos 'dzin gdon chen mi **bzad** khar song nas ||
lta ba'i mche ba rnon pos dam du **zin pa** yin || (12)

'du byed tshogs 'di med ces yid la mi gnas par ||
snang don nyid dam de la yang dag 'gog smra ba'i ||
mi de gnyis kyang tshad ma'i lam las **rnam 'khyams** nas ||
(2r4) log lta'i **mya ngam thang chen nang du** nges par lhung ||⁸ (13)

sgyu ma gnyis med chos kun mi gnas dbu ma **pa'i** ||⁹
lugs gnyis rnam 'byed **de** yang rmongs pa mtshar¹⁰ skyed¹¹ yin || (14)

dgag pa gtsor 'dzin rjes dpag shes la snang ba yi ||
dngos tshogs¹² **de dag** blo des **sgrub** dang dgag med par ||
tshad **mas** rnam gnas¹³ (2r5) don gyi **cha la rnam**¹⁴ **dpvod** blos ||
don¹⁵ de bkag nas gzhan sgrub¹⁶ med ces nges par bzung || (15)

rmi lam grong khyer zhig go zhes ||
'dzin pa'i rnam rtog gang yin des ||
brtags don grong gi zhig pa nyid ||
grong nyid med na med pa ltar || (16)

yang dag nyid du dngos med ces ||
'dzin pa'i blo yis brtags pa'i (2r6) don ||
yang dag bkag pa **med** nyid kyang ||
yang dag dngos po med par min || (17)

'di ltar yul med pa la ni ||
 dgag pa 'jug pa srid ma yin || (18)

des na med ces **nges** bya ba ||
 dgag bya'i dngos po ma grub **pa** ||
 de tshe **bkag** pa rten bral **ba** ||
 blo yi mdun **na** gnas mi 'gyur || (19)

de ltar dngos po yod min (2r7) la ||
 de **bkag** pa yang ma grub na ||
 de gnyis las 'das don 'ga' yang ||
 'dzin pa'i **yul** du 'gro mi srid || (20)

des na shes bya'i mtshan ma las ||
 blo yi g-yo ba nam **bzlog** ste ||
 spros tshogs nyer zhi bdag med pa'i ||
 don la blo ni legs **gzha**g bya || (21)

de ltar stong nyid goms pa **las** ||
 dngos 'dzin rab tu zhi ba dang ||
 bdag med (2v1) nyid kyang 'dzin med pa ||
 de tshe yang dag mthong zhes bya || (22)

gang tshe lta ba'i dri ma kun ||
 ye shes chu bos nam sbyangs **pa** ||
 de tshe shes dang bya dag ||
 dmigs pa med par rab tu zhi || (23)

dper na chu la chu **gzha**g dang ||
 mar la mar ni rjes zhugs ltar ||
 shes bya spros bral de nyid dang ||
 dbyer med ye shes nam 'dres pa ||

de **ni** sangs (2v2) rgyas thams cad kyi ||
rang bzhin chos sku zhes **byar** brjod || (24)

de rjes shes bya'i rjes 'brang can ||
rdzun snang 'jig rten ji srid pa ||
rig mdzad me long lta bu ni ||
longs spyod rdzogs pa'i sangs rgyas **yin** || (25)

snga ma ji lta **nyid mkhyen** ni ||
'khrul med mnyam gzhag blo 'jug med ||
phyi ma ji **snayed** mkhyen pa ni ||
'khrul snang rjes thob blo (2v3) 'jug can || (26)

sangs rgyas sprul pa'i sku tshogs ni ||
gzhan gyi rnam **rig** snang **ba** ste ||
brgya byin gzugs brnyan la sogs **dpes** ||
mdo nas ji skad gsungs de bzhin || (27)

de ltar theg chen bka' tshogs 'o ma'i mtsho bsrubs las ||
skyes pa'i bdud rtsi bla ma **brgyud** pa las rnyed 'di ||
gzhan phan **yid kyis** phyogs su rgyas par bya ba'i phyir ||
(2v4) phrin yig tshul du bgyis te khyed la gsol ba lags || (28)

dam pa khyed kyi chos spyod rab tu 'phel ba'i rgyu ||
sems skyed cho ga **yi** dam **blang dang** beas pa 'di ||
legs par **bsgyur nas khyed kyi phyag tu 'bul lags kyis** ||
cho ga 'di bzhin kun gyis nyams su bzhes par zhu ||¹⁷ (29)

lo tsa ba chen po shākya'i dge slong blo ldan shes rab kyis || **dga'** (2v5) ston shes rab
grags la sogs pa **tsong ka** ru gsum gyi dge 'dun la **springs** pa'i yi ge bdud rtsi'i thig le
zhes bya ba rdzogs **so** || ||¹⁸

stong nyid 'chi med bdud rtsi'i bcud ||
 thugs skyed dpag bsam 'dod 'jor ni ||
 gang drangs rkos byed dga' bde'i dpal ||
 bris pa shes rab bzang po yin ||

shubham ||

異読一覧

以下に示す異読一覧においては、左側に校訂テキストの偈頌番号を提示し、続いてテキストの異読を挙げた。使用した略号は以下のとおり。

- Ms Manuscript (デプン寺写本、加納 2007 参照)
 Ś 『書簡大注』から回収される偈 (10–12, 14–27 偈) の読み¹⁹
 X Xylograph (新出版本)
em. *emendation* : 加納 2007 で提案した訂正
conj. *conjecture* : 加納 2007 で提案した暫定的な訂正

新出版本以外の異読取捨の論拠についてはすでに加納 2009 にて論じた。新出版本の異読の取捨については本稿下掲の和訳の注記において論じる。

頭書 : rgya gar skad du || le kha a mri ta ti la ka nā ma kā ri ka || bod skad du || spring yig
 bdud rtsi'i thugs pa zhes bya ba || 'jig rten dbang phyug la phyag 'tshal lo || X, om. Ms.

1d: **dngar** X, mngar Ms.

3b: ldan X, can Ms.

3c: **ngan 'gro'i g-yang sa** X, 'gro ba gnas Ms, 'gro skye gnas *conj.*

3d: ces X (= *conj.*), cing Ms.

5a: dpung Ms X, bdud Ś.

5a: skems byed Ms X, skem byed *em.*

7a: sangs rgyas bstan pa sdug bsngal nad kun zhi byed pa'i Ms X, sdug bsngal [nad kun
 zhi byed pa'i sangs rgyas bstan pa] Ś.

7b: bdud rtsi'i X, bdud rtsi Ms.

- 8a: **zhi yid** X, yid bzhin Ms
8b: bsten X, sten Ms.
9b: bsil ba (bas に訂正する必要あり) X, bsil bas Ms.
9d: lo thog X, lo tog Ms.
10b: klu sgrub X Ś, klu grub Ms.
10c: dbang phyug Ms X, mthar thug Ś.
10d: **rtswa** X (=em.), rtsa Ms Ś.
11d: klu sgrub kyis X Ś, klu grub gyis Ms.
12b: tshad **mas** X Ś, tshad ma Ms.
12c: gdon chen mi **bzad** X (=em.), gdon chen mi zad Ms, mi bzad gdon chen Ś.
12d: zin pa Ms X, bzung ba Ś.
13c: **rnam** 'khyams X, rnams nyams Ms, rnam nyams em.
13d: mya **ngam** X, mya ngan Ms.
13d: thang chen nang du X, rgya chen thang du Ms.
14a: dbu ma pa'i X Ś, dbu ma yi Ms.
14b: de yang Ms X, 'di yang Ś.
15b: de dag X Ś, dge ba'i Ms.
15c: tshad **mas** X Ś, tshad ma Ms.
15c: cha la nram dpyod blos X Ś, cha rnams spyod pa'i blos Ms.
17c: med Ms X, de Ś.
19a: nges X Ś, des Ms.
19b: ma grub **pa** X, ma grub na Ms Ś.
19c: bkag X, dgag Ms Ś.
19c: bral **ba** X Ś, bral na Ms.
19d: mdun na X Ś, mdun du Ms.
20b: bkag X Ś, dgag Ms.
20d: **yul** X Ś, yu Ms.
21b: bzlog Ms X, zlog Ś.
21d: gzhag X, bzhag Ms Ś.
22a: las Ms X, yis Ś.
23b: sbyangs pa X Ś, sbyangs pas Ms.
24a: dper na chu Ms X Ś, ji ltar chu *Grub mtha' mdzod* (114b4) = *Chos dbyings mdzod*

(186a4).

24a: gzhag X, bzhag Ms *Ś bsTan rim Grub mtha' mdzod*, thim *Chos dbyings mdzod*.

24e: de ni Ms X, de tshe *Ś*, de nyid *Grub mtha' mdzod* = *Chos dbyings mdzod*.

24f: zhes byar Ms X *Grub mtha' mdzod* = *Chos dbyings mdzod*., zhes su *Ś*.

25b: rdzun X *Ś*, brdzun Ms.

25d: yin X *Ś*, so Ms.

26a: ji lta nyid mkhyen Ms X bsTan rim, ji lta mkhyen nyid *Ś*.

26c: ji snyed Ms X *bsTan rim*, ji srid *Ś*.

27b: rig Ms X, rigs *Ś*.

27b: snang ba X *Ś*, snang pa Ms.

27c: la sogs **dpes** X *Ś*, la swogs dpe' Ms.

28b: **brgyud** pa X, rgyud pa Ms *Ś*.

28c: gzhan phan **yid kyis** X, gzhan phan nyid kyi Ms.

29bcd: sems skyed cho ga yi dam blang dang bcas pa 'di || legs par **bsgyur nas khyed kyi phyag tu 'bul lags kyis || cho ga 'di bzhin kun gyis nyams su bzhes par zhu || X**, sems skyed cho ga yid dam spyod pa dang bcas 'di || legs par zhu || Ms.

奥書 : **lo tsa ba chen po shākya'i** dge slong X, dge slong Ms.

奥書 : **dga'** ston X, rga ston Ms.

奥書 : **tsong ka** X, gtsong kha Ms.

奥書 : **springs** pa'i X, spring pa'i Ms.

奥書 : rdzogs **so** X, rdzogs s-ho Ms.

和訳

(下記の和訳は加納 2009 に基づき、新出版本の異読箇所については太字で新たな訳を提示し、注記した。小見出しは本稿筆者が便宜上補足したものである。各偈の典拠の提示、思想内容の詳述、注釈における指摘などについては加納 2009 所掲の訳注に既に示したので、ここではそれらを全て割愛し、異読に関する注記のみを添えた。)

[頭書] 書簡・甘露の滴、在中。

インド語で *Lekha-amṛtatilaka-kārikā*、チベット語で書簡・甘露の滴。

世自在に礼拝²⁰。

[序]

信仰という堅固な地盤と、[悟りへの]熱意という立派な根をもち、
心の本性についての思惟という幹ゆえに美しく、
行の(sgrub)華が開花し、[四]撰事という涼しい[木]陰をもち、
利他という蜜味の(dngar)²¹ 果実をもつ、聖なる大樹林である汝よ、[1]

[心]性たる虚空に依拠し、非如理作意たる龍によって化作され、
愚かさという雲の集まりと、貪りという稲光の首飾りをもち、
怒りというゴロゴロと轟き渡る雷鳴から発せられた、
悪行という煌めく雷によって打たれることなかれ。[2]

[輪廻の厭離]

生まれた後にやって来る病・老よりなる鋭い牙をもち
無常を身体とする²² 死魔が羅刹のようにやって来て、
悪趣という深淵(ngan 'gro'i g-yang sa)²³、つまり苦という無限の大なる闇に
この一群の人々を、[彼らがどうする]力も無いままに、連れ去ると²⁴、しっ
かり思惟せよ。[3]

[悟りへの発心]

このような苦にあふれた深淵を臆念した後、
不放逸の力を起こし、[自らの]身命を顧みないまま、
煩惱という一群の敵を征するために怠慢なき心によって
精進という鎧を纏い、忍耐の堅忍さを打ち立てよ(gzugs bya)²⁵。[4]

死魔の軍²⁶を征し、苦の大海を枯渴させ(skems byed)²⁷、
楽の源泉であるところの宝たる菩提に向けて発心し、
自利に没頭して[輪廻的]生存を喜ぶ人と[涅槃の]寂静を喜ぶ人(凡夫と声聞
乗)を
劣れるものとみなしてから(bltas)²⁸、両者(凡夫および声聞乗)を憐むべき対象
として立てよ。[5]

[自利行と利他行]

六波羅蜜の階段をもち、
潜在印象の排除という堅固な網 (dra ba)²⁹ によって巡らされ (bskor ba)³⁰、
智慧の壁と利他の鼓音によって美しい、解脱という天宮に、
自ら登り、他者をも導く方便に専念せよ。[6]

[持戒、師事、精進]

仏教という、苦の病を完全に鎮めるための
この甘露の最上のもの (bdud rtsi'i mchog)³¹ を得た後、[それが]無駄にならない
ために
最上の牟尼によって (gis)³² 創始された学処を逸脱せずに
誓戒をよく守り、優れた善知識によく仕えるべきである。[7]

法行に勤しみ、寂靜な心で (zhi yid)³³ 利他に専念することによって
人々は信じるようになる。[よって]正行に親近すべし (bsten)³⁴。[8]

[善知識への師事から仏徳円満まで]

善知識という雲より正しく生じた、多聞という
清涼な雨によって (char rgyun bsil ba → bas)³⁵、煩惱という苦しみを鎮めて、
善逝蔵という種子をよく潤わせて
円満なる仏徳という作物 (lo thog) を育てるべし。[9]

[空性説の典拠]

諸法本性空のあり方に入るための門たる
龍樹先生がお説きになった正しい論理書を、
論理の自在者³⁶たる『ヴァールティカ』作者[ダルマキールティ]の美しい思
想に基づいて
明瞭に理解してから、他の悪しき立場全てを雑草 (rtswa)³⁷ 同様に捨てるべし。
[10]

ここ[チベット]にやって来た「^{ペンディタ}学者先生」と呼ばれる者たちの大半はまた、
論典に通じておらず、自らの悪しき見解によって[人々を]扇動し、

二つの極端を求めて正しい道を排斥するので、
彼らのことばのせいで、龍樹が (kyis)³⁸ 説いた道を捨てるなかれ。[11]

[誤った立場]

諸々の対象について、論理を通じて、何らかの形で存在すると主張する者と³⁹、
有為のあり方から超越した真理を正しい認識手段によって (tshad mas)⁴⁰ 確定する者。

この両者は、実体的把握という恐るべき大悪魔 (gdon chen mi bzad)⁴¹ の口に入り、
[誤った] 見解という鋭い牙によってしっかりと捕らえられる (zin pa)⁴²。[12]⁴³

「この有為の集合は存在しない」とは心に留めず、
顕現対象だけを[論じる人]、或いはそれ(顕現対象)についての真実としての
否定を論じる人。

この両者とも正しい認識根拠の道から[外れて]さまよい ('khyams)⁴⁴、
誤った見解という、渺然たる砂漠の中に⁴⁵ (mya ngam thang chen nang du) 必ず
落ちるのである。[13]

幻不二[派]⁴⁶ と一切法無住[派] という中観派の

二つの流儀を区別することもまた、[単に] 愚者を感心させるものである。[14]

[否定について]

否定を専らとする推理知に現れるそれらの事柄の集合[すなわち主辞などの論
証式の要素]を、その[主辞などを対象とする]知によって肯定 (sgrub) も否定
も[すること]なく、正しい認識根拠によって成立するところの対象[すなわち
直接知覚・推理にて認識される対象]の部分について分析する知によって⁴⁷、
その[真実在と誤認される]対象[全体]を否定した後、ほかには[真実無なる
対象は何も]肯定されないと確認される。[15]

夢において、街が破壊されたと

把握する分別知により

想定された対象たる「街の破壊」は、

[そもそも] 街そのものが存在しないならば、無い如く、[16]

真実において事物は存在しないと
把握する御智によって想定された[仮の]対象は、
[そもそも]真実としての否定が存在せず⁴⁸、
真実としての事物が存在しないならば、[真実としては]ありえない。[17]

このように存在しない対象に関して
否定が適用されることはあり得ない。[18]

それゆえ「存在しない」と確定すべき、
否定対象である事物が成立していない場合 (ma grub pa)⁴⁹、
否定されたものは (bkag pa)⁵⁰ 拠り所を離れており⁵¹、
知の前に (mdun na)⁵² 存続しえない。[19]

そのように事物は存在しないし、
それを否定されたもの (bkag pa)⁵³ もまた成立しないなら、
その両者（存在とその否定）を離れた、いかなる対象も
認識対象となることはあり得ない。[20]

それゆえ所知の特徴から
知の[過剰な]動きを排除して、
戲論聚を鎮めて、無我という
対象に知を正しく据えるべし (gzhag bya)。[21]

[空性の修習]
そのように空性を修習して、
実体的把握[という妄想]をよく鎮め、
無我にすら執着することがなくなったとき
真実をみるという。[22]

あらゆる見解の垢を
智慧の河によって洗い流したとき⁵⁴
知と所知は

所縁のないままに鎮まる。[23]

[仏の三身]

たとえば水の中に水を注いだり (gzhag)、
バターにバターがくっつくのと同様に、
戯論を離れた所知自体と、
不可分な智慧が混ざる。
それこそが⁵⁵一切諸仏の
本性たる法身なりといわれる。[24]

その後、所知に対応した
あらゆる世間的な虚偽の現れを
認識なさる鏡の如きものが
報身仏である (yin)⁵⁶。[25]

前者（法身）、如実智は
錯誤無き等至であり、知の活動が無い。
後者（報身）、如量智は
錯誤の顕現した後得であり、知の活動を伴う。[26]⁵⁷

仏の変化身の集まりは、
他者〔即ち衆生〕の識に顕現する。
帝釈の影像などの比喩によって (dpes)⁵⁸
経典に説かれたごとし。[27]

[結語]

以上のように、大乘の教えの集まりという乳海を攪拌することから
生じた甘露、師子相承より得られるこのものを
利他の心によって (gzhan phan yid kyis)⁵⁹ 流布させるべく、
書簡というかたちで著し、あなたに献上申し上げる。[28]

正しい方であるあなたの法行が栄える原因、

誓願の受持を含んだ、この発心儀軌を、
正しく[チベット語に]移してから (bsgyur nas)⁶⁰、あなたのお手元にお届けいたしますので、
この儀軌の通りに、皆さんは実践して下さいますようお願い申し上げます。[29]

[奥書]

大翻訳師釈氏比丘ロデンシェーラプがガトン・シェーラプタクをはじめとするツォンカ地方のルスムの僧伽に宛てた書簡『甘露の滴』、完。

[開版奥書]

空性という不死なる甘露の精髓たる、発心という如意樹（つまり本書）を (dpag bsam 'dod 'jor)、引き出した者は、[版木]彫師ガデーペル (rkos byed dga' bde'i dpal)、筆記者シェーラプサンポ (bris pa shes rab bzang po) である。

おわりに

『書簡・甘露の滴』の新出版本は、既知の写本の読みを多くの箇所では訂正しうる良質の資料であることが確認された。しかもそれら良質の読みは、開版に際して読み易くするために新たに手が加えられた過剰な訂正の類ではなく、著者自身の読みに遡りうる古形を保持しているとみられるものが多い。その詳細は、上記和訳に付した注記を参照されたい。新出版本には、写本になかった頭書と開版者の奥書が付されている点も注目されるが、最も注目されるのは最終偈である。

最終偈、つまり第 29 偈は、既知の写本では半分ほどが脱字によって欠落していたが、新出版本によってその脱落部分が完全に回収された。そして全体が得られたいま、脱字の理由も予想できるようになった。脱字は、c 句と d 句に現れる 2 つの par という語に挟まれた箇所で行われている。写本（またはその元本の）の書写者は、c 句の legs par の par の後に続く後半 2 句を読み飛ばしてしまい (eye-skip)、誤って d 句の bzhes par の par のところから書写してしまった結果、その間の文言がそっくり脱落したものと予想される（つまり本来 legs par [... bzhes par] zhu || とあったのだから、写本は角括弧部分を読み落として legs par zhu || とした）。

なおシャーキャチョクデンの『書簡大注』から、この読み飛ばされた文言の

部分は断片的に回収されていたが⁶¹、それらは新たに回収された文言と一致することが確認された。またチョムデンレルティの『書簡要義』が第29偈を「本誓を取得する儀軌を努めて教誡する」偈頌と説明するが、このたび回収された内容と一致することも分かった。

本書の校訂本の改訂版については英訳とあわせて別稿を期す。当版本以外の新出資料、とくに『究竟論要義』の検討は今後の課題としたい。

【資料】 新出資料ゴク・ロデンシェーラプの小篇作品集の書誌情報

下記は、同資料所収5点の作品について、それぞれ表紙頁、冒頭、奥書またはその一部を抜粋したものである。冒頭や奥書が複数確認される場合は、「冒頭1」「冒頭2」など番号を添えた。誤写は訂正せずにそのままに残した。一部、理解困難な箇所も残った。

(1) 『現観莊嚴論要義』、99葉 (pp. 3 ~ 200)、木版本。

表紙頁 (p. 3) : lo tsa ba chen po'i bsdus don bzhugs so ||

冒頭 (fol. 1a1 = p. 4) : 'phags pa byams pa la phyag 'tshal lo || gang gis sgribs tshogs ma lus gtan bcom zhing || shes bya'i don kun yang dag mtha' gzigs te || thugs rje ...

奥書 (fol. 99a1-2 = p. 199) : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos kyi don bsdus pa rdzogs so || dge slong blo ldan shes rab kyis rab tu sbyar ba'o || (以下版本開版者の奥付が続く。詳細は Jackson 1993b 参照。)

(2) 『般若波羅蜜説口決現観莊嚴論注・明示灯』、Kha 26葉、Kha 30葉、Nga 48葉、Ca 20葉 (pp. 201 ~ 387)。写本。

表紙頁 1 : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi dgongs 'grel las skabs gnyis pa dang gsum pa'i nram bshad bzhugs so ||

冒頭 1 (fol. 1a1-2 = p. 201) : gnyis pa nram mkhyen der bgrod par byed pa'i lam shes rgyas par 'chad pa la | chos bcu gcig mtshon te bstan pa dang | skabs bsdu ba dang bcas pa'i sa bcad nram pa gnyis byung | dang po lam shes kyi yan lag bshad pa dang | lam shes kyi rang bzhin bshad pa dang bcas pa'i sa bcad nram pa gnyis byung | dang po ston pa la | lha rnams rung ...

奥書 1 (fol. 26b1-2 = p. 252) : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan

bcos mngon par rtogs pa'i rgyan ces bya ba las | thams cad shes pa nyid kyi skabs
de gsum pa'o ||

表紙 2 (fol. Kha 1a1 = p. 253) : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan
bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi dgongs 'grel nram bshad gsal sgron las skabs
bzhi pa dang lnga pa bzhugs so ||

冒頭 2 (fol. 1b1 = p. 254) : gnyis pa sbyor ba bshi tshig don yan lag gi sgos rgyas par
bshad pa zhes pa'i sa bcad de ...

奥書 2 (fol. 29a2 = p. 309) : ... smon pa med pa'i thabs mkhas sbyar ba |

表紙頁 3 (fol. Nga 30a = p. 311) : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan
bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi dgongs 'grel nram bshad gsal sgron las skabs
lnga pa bzhugs s-ho |

冒頭 3 (fol. 30b1 = p. 312) : gnyis pa dbang du bya ba 'bras bu rtse sbyor bshad pa la ...

奥書 3 (fol. 48b5 = p. 348) : skabs dang skabs bzhi pa bskabs lnga bcas | kho bos rig
gnas bun la ma sbyangs pas | gsung rab la thad kar rwa spread | re zhig cig bris
khus byas yod kyang | dri ma zhig mchis na bzod par gsol dge'o ||

表紙頁 4 (fol. Ca 1a = p. 349) : shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan
bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi 'grel pa gsal ba'i sgron me las skabs brgyad
pa'i nram bshad bzhugs so |

冒頭 4 (fol. 1b1 = p. 350) : gsum pa 'bras bu chos sku rgyas par 'chad pa la | ...

奥書 4 (fol. 19a4–b1 = p. 386) : gsum pa bshad pa mthar phyin pa'i tshul de ston pa
la shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos mngon par rtog (sic)
pa'i rgyan ces bya ba rje btsun byams pa mgon pos mdzad pa rdzogs so zhes pa'i
bar gyi gzhung 'di byung | bzhi pa 'jug gi don ston pa la rgya gar gyi pañdi ta shri
go mi 'chi med dang | bod kyi lo tstsha ba dge slong blo ldan shes rab kyi bsgyur
cing zhush te legs par gtan la phab pa'o | zhes pa'i gzhung 'ang byung yin 'ir (sic) |

(以下速記体で5行に亘って回向文) nam zhig rdo rje'i gdan gyi ri bo'i spod ||
byams mngon nyin phyed dbang po shar ba'i tshe || bdag gi blo gros glo kha phyen
nas || skal bzang bung pa'i tshigs rnams tshim byed shog || de tshe rgyal ba byams
(2行目) pa rab tu dgyes || phyag g-yas bdag gi mgo la bzhag bzhin du || bla med
byang chub mchog tu lung bstan nas || 'gro kun don du sangs rgyas myur thob
shog || **rnam bshad tshig don gsal ba'i sgron me 'di** || (3行目) lhag pa'i lha mo
mnyes pa'i mchod par 'bul || 'jam dbyangs zhal dron cing blo gros phel ba dang ||

legs bshad rin chen phyogs bcur rgyas par mdzod || 'di ni bsod nams bye ba'i dbyar
gyi rdo rje grags (4 行目) pa'i gdan phyogs bcur g-yo ba yi || gangts ri'i legs bshad
snying por rab sgril ba || 'phros don [sa] bcad grengs 'dzin bod 'di || **dge 'dun dpal
bzang** zhes bya'i rtog ge pas | bsgrigs pa'i dge (5 行目) 'dis 'jam (read: byams?)
mgon bla ma'i bstan || tshe rab kun tu 'dzin pa'i rgyu ru bsngo || bkra shis dge legs
phel gyur cig ||

(3) 『書簡・甘露の滴』、2 葉 (pp. 388 ~ 391)、木版本。

表紙頁 (fol. 1a = p. 387) : spring yig bdud rtsi'i thigs pa bzhugs so ||

冒頭 (fol. 1b1 = p. 388) : rgya gar skad du || le kha a mri ta ti la ka nā ma kārika || bod
skad du || spring yig bdud rtsi'i thigs pa zhes bya ba || ...

奥書 (fol. 2b4-5 = p. 390) : lo tsa ba chen po shākya'i dge slong blo ldan shes rab kyis
dga' ston shes rab grags la sogs pa tsong ka ru gsum gyi dge 'dun la springs pa'i yi
ge bdud rtsi'i thig le zhes bya ba rdzogs so || || stong nyid 'chi med bdud rtsi'i bcud
|| thugs skyed dpag bsam 'dod 'jor ni || gang drangs rkos byed dga' bde'i dpal || bris
pa shes rab bzang po yin ||

(4) 『文字論・歡喜集成』ほか、8 葉 (pp. 392 ~ 407)、写本。

表紙頁 (fol. 1a = p. 391) : (1 行目) Tshé 217 / A 20⁶² (2 行目) tshal gshag myu gu
bag chu dang bcas pa'i gdams pa 'dra yod lags || dza yantu || (3 行目) 22

冒頭 1 (fol. 1b1-5 = p. 392) : mkhyen rab mgon 'jam dbyangs dang | gzhung lugs (?)
bram ze li byin dang | thon mi sambho ṭa la sogs | gsal byed yi ge'i mkhan rgyud
la || gus pas phyag 'tshal bstod par bgyi || **yi ge'i bstan chos dga' ba kun 'dus** las
|| dang po byung khungs rgya gar du | bram ze mkhas pa li bying la | bod blon thon
mi sambho ṭas | gser phul yi ge'i gdams pa zhus || bram ze legs gsung yig rig ni ||
mi cig sum brya drug bcu dang || khyad par lan tsha wa tru sogs || gdams pa mtha'
dag gnang bar mdzad || bod blon shes rab ldan pa yi || yig rigs thams cad thugs su
chud || rgya yig lnga bcu thos (?) pa la || bod yig sum bcu bstan la phabs || bod yig
ka mas sum bcu so'i || bstod na ca cha ja dang gsum || smad na zha za ' dang drug
|| yas mas ldebs pa'i drug du bshad || rgya na med pa'i yi ge'o || rgya skad e ka zhes
pa la || bod skad cig zer zha ...

奥書 1 (fols. 4b5-5a2 = pp. 398-399) : de lta'i tshul 'di bsod nams rgyal mtshan sogs ||

don gnyer 'ga' yi yang yang bskur ba'i ngor || rigs bzang blo gsal mkhan sher yis ||
bka' yis bskul nas rgya bod yi ge la || blo gros byung pa ngag dbang grags pa yis ||
nyi ma'i lo la dpal ldan sher du bri || don gnyer mams la 'ang mang du phan gyur
cig ||

冒頭 2 (fol. 5a3 = p. 399) : na mo mañju shri ye | 'jam pa'i dbyangs la phyag 'tshal nas
|| yi ge'i tshad ni bshad par bya || dkyil 'khor thig la dpe blang nas || 'jam dbyang
sprul pa sambho ṭa || ...

奥書 2 (fol. 7a2–4 = p. 403) : **yi ge'i man ngag mdor bsdus** 'di || blo gros rab tu gsal
ldan pa || sher mgon zhes byas bskul nas ni || tha snyad gtsug lag mtha' dag la ||
legs par sbyangs ba'i lo tstsha ba || ngag gi dbang phyug grags pas bgyis || dge bas
'gro kun ma lus pa'i || shes bya'i sgrib pa dag gyur cig ||

冒頭 3 (fol. 7a4 = p. 403) : gzhan yang snyug bshad bstan pa ni || gzhon nu blo gsal
lag pa bde || dad btsun bdun ldan don la gus || ...

奥書 3 (fol. 8a5–b2 = pp. 405–406) : **snyug bshad gsal byed nor bu** 'di || **khyung po**
g-yu khris rjes 'brang nas || legs par 'dus pa'i bdud rtsi 'di | **blo ldan shes rab** bdag
gi (read: gis) sbyar || blo gsal 'gug pa'i rgyan du bkod || 'jam pa'i dbyangs la gus
phyag 'tshal || mang-ga lam ||

(右にウメ字体で) gra sjong dkar por tshes 10 kyi nyin bris ||

(5)『究竟論要義』、Ka ~ Hu (pp. 408 ~ 526)、写本。

表紙頁 (p. 407) : rngog lo tsa bas 'dzad (read: mdzad) pa'i rgyud bla ma'i ti ka (表紙
のみウメ字体)

冒頭 (fol. Ka-a1 = p. 408) : 'jig rten kun dang myi 'thun pa || zab mo'i don can bstan
bcos 'di || thugs rjes bdag cag la gsungs pa || chos la spyang gyur de la 'dud || bcom
ldan 'das byams pas bde bar gshegs pa'i dka' (read: bka'i) dgongs pa phyin ci ma
log par gsal bar mdzad pa na | nges pa'i ...

奥書 (fol. Hu 4 [drug bcu rtsa dgu bzhugs so] = p. 525) : theg pa chen po rgyud bla
ma'i bstan bcos kyi don bsdus pa | dge slong blo ldan shes rab kyis sbyar ba'o ||
(下方に補記) pan ti ta dkar po (rgya gar shar phyogs kha che ba yin)⁶³ | lo tsa
ba rngog blo ldan (snum mtsho drwo ba) | zhang tshes (dmyal ba)⁶⁴ | khru ston
brtson 'grus (khugs chung ba) | mkhas po rba grags pa bsod nams (la mo ba) | 'or
bryad bsod nams tshul khriims (rka ba dgung dkar ba yin no) ||

参考文献

(略号)

『書簡大注』= Shākya mchog ldan. *sPring yig 'dud rtsi'i thigs pa'i rnam bshad dpag bsam yongs 'du'i ljong phreng. The Complete Works (gsung 'bum) of gSer-mdog Pan-chen Shākya- mchog-ldan*, Thimphu: Kunzang Tobgey, 1975, vol. 24: pp. 320–348.

(和文)

加納和雄

2007 「ゴク・ロデンシェーラブ著『書簡・甘露の滴』一校訂テキストおよび内容概観一」、『密教文化研究所紀要』20、1–50 頁。

2009 「ゴク・ロデンシェーラブ著『書簡・甘露の滴』一訳注篇一」、『密教文化研究所紀要』22、121–178 頁。

(欧文)

Kano Kazuo

2006 *rNgog Blo-ldan-shes-rab's Summary of the Ratnagotravibhāga: The First Tibetan Commentary on a Crucial Source for the Buddha-nature Doctrine*. Dissertation Thesis submitted to Hamburg University.

2016 *Buddha-nature and Emptiness: rNgog Blo-ldan-shes-rab and a Transmission of the Ratnagotravibhāga from India to Tibet*. Vienna: Vienna Series for Tibetan and Buddhist Studies.

Jackson, David

1993a rNgog Lo-tsā-ba's Commentary on the Ratnagotravibhāga. In: *Theg chen rgyud bla ma'i don bsdu pa. Commentary on the Ratnagotravibhāga by rNgog Lotsaba Blo ldan shes rab*. Dharamsala: Library of Tibetan Works and Archives Library of Tibetan Works and Archives.

1993b rNgog-lo's Commentary on the *Abhisamayālamkāra*. In: *Lotsa ba chen po'i bsdu don*. Dharamsala: Library of Tibetan Works and Archives Library of Tibetan Works and Archives.

(令和元年度科学研究費[18H03569][17K02222][17H04517][18K00074]による成果。)

注

- 1 詳細は加納 2007、2009（第 1～60 巻の書誌情報）、および拙稿「チベット仏教思想史の再構築にむけて—新出資料カダム派全集—」（『チベットの歴史と社会』臨川書店、近刊）を参照。目下、Pascale Hugon 氏（オーストリア科学アカデミー）との共同プロジェクト The gateway to Tibetan scholasticism として、『カダム全集』の網羅的な目録を準備し、その成果の一部はオンラインにて公開している（www.ikga.oeaw.ac.at/KDSB）。
- 2 アクセス番号 W3CN18534。https://www.tbrc.org/#!rid=W3CN18534（最終確認日 2019 年 11 月 4 日）。Dan Martin 氏のご教示により同資料の存在を知りえた。その後 Pascale Hugon 氏からもご教示を受けた。記して謝意を表したい。
- 3 注釈 3 点および抽出される偈については加納 2007: 7、2009: 123–125 を参照。注釈はシャーキャチョクデンによるものが 2 点、チョムデンレルティによるものが 1 点ある。抽出偈は本稿の異読一覧の注を参照。
- 4 同書の校訂と和訳については別稿を期す。
- 5 詳細は加納 2007、2009、Kano 2016: 228–233 を参照。
- 6 版本では補修紙に隠れて 2 文字ほど見えない。括弧内に補った。
- 7 版本では補修紙に隠れて 2 語ほど見えない。
- 8 字間にウメ字で判読困難な 2 文字 (bya ste?) が補筆される。
- 9 次のように下部の行間にウメ字で補筆される（角括弧内が補われた語）。sgyu ma gnyis med [pa'i dbu ma pa dang] chos kun [rab tu] mi gnas dbu ma pa'i ||
- 10 ngo を msthar の前に補って理解せよとの意図で、ngo が行間下部にウメ字で追記される。
- 11 skyed の後に byed を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 12 dngos tshogs の後に rten chen gyi を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 13 mam の後に par dpyod pa'i を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 14 mam の後に par を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 15 don の前に bden pa'i を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 16 sgrub の前に bden med を補って理解せよとの意図で、後者がウメ字で行間下部に追記される。
- 17 写本にはほぼ欠落する cd 句が新出版本には確認される。
- 18 これ以下は版本のみに確認される、開版の奥書である。
- 19 シャーキャチョクデン作『書簡大注』から回収される偈は下記のとおり（括弧内は所在）。第 10 偈 (322.7-323.1)、第 11 偈 (327.3-4)、第 12 偈 (329.2-3)、第 14 偈 (334.1-2)、第 15 偈 (335.4, 336.3)、第 16 偈 (337.2-3)、第 17 偈 (337.4-5)、第 18 偈 (337.6-7)、第 19 偈 (337.7)、第 20 偈 (338.1-2)、第 21 偈 (339.1)、第 22 偈 (339.2)、第 23 偈 (340.3)、第 24 偈 (340.4-5)、第 25 偈 (340.6-7)、第 26 偈 (341.3)、第 27 偈 (341.7) については、その全文が回収できる。一方、第 1 偈から第 9 偈 (321.3-322.4) と第 28 偈 (347.7) は各偈の初頭句数音節のみが回収

(82) ゴク・ロデシェーラプ作『書簡・甘露の滴』の新出版本（加納）

- でき、第13偈(332.1-6)は単語単位でパラフレーズされるために断片的にのみ回収できる。加納2007:7参照。Śが無記載の場合、当該偈はŚから回収されないことを示す。
- 20 デブン寺写本には欠如するが、シャーキャチョクデンの『書簡大注』にあり(321.3: mchod pa brjod pa ni | 'jig rten dbang phyug sogs dang |)。「インド語で」という表現については、後掲の注60を参照。
- 21 新出版本の読み「蜜味の」(dngar)は、「蜜味」dngar roの省略形と理解した。写本の読みは「甘い」(mngar)。
- 22 新出版本の読みldanは、校訂本の読みcanと同義。
- 23 かつて校訂本において筆者は写本の「悪趣の者たちの場」(ngan 'gro ba gnas)という読みを、「悪趣の生存領域」(ngan 'gro skye gnas)というより一般的な表現へと暫定的に訂正した(加納2007:14)。しかし新出版本の読みがよりふさわしく、かつ第4偈の「このような苦にあふれた深淵」にもきれいにつながる。
- 24 校訂本のkhrid cingは誤植である。加納2007:149に示した通り、khrid cesに改める。写本は「連れ去り」(khrid cing)と読むが、直後の「しっかり思惟せよ」(nges par bsam)と構文上うまくつながらない。そのため「連れ去ると」(khrid ces)と読む必要がある。そしてこの訂正案は新出版本の読みkhrid cesによって裏付けられた。
- 25 「打ち立てよ」(gzugs bya)は、校訂本では「保持せよ」(gzung bya)と読んだ。
- 26 写本と新出版本は「死魔の軍を征し」('chi bdag dpung 'joms)と読むが、『書簡大註』は「死魔を征し」('chi bdag bdud 'joms)と読む。いずれの読みも可能であるが、一般的に「魔軍を征する」という表現が定型句として蔵内外文献に広くみられるため写本の読みを採用した。
- 27 写本と新出版本にはskems byedとある。校訂本ではskem byedとしたが訂正不要か。
- 28 校訂本の読み、「劣れるものとみなしてから」(dman par ltas nas)のltasは、新出版本の読みのようにbltasに改める必要がある。
- 29 当該の比喻においては校訂本の読みである「困い」(ra ba)のほうがふさわしい。
- 30 新出版本の読みbskor baが、校訂本の読みskor baよりもふさわしい。
- 31 写本の読みは「最上の甘露」(bdud rtsi mchog)。
- 32 校訂本のkyisは誤記。
- 33 写本は「心のままに」(yid bzhin)。
- 34 校訂本の読みsten(命令形)も可能。
- 35 校訂本の読み「清涼な雨によって」(char rgyun bsil bas)に従って訂正を要する。
- 36 「論理の自在者」(rigs pa'i dbang phyug)という写本と新出版本の読みに対して、『書簡大注』は「論理の究極」(rigs pa'i mthar thug)と読む。「論理の自在者」という表現は、ダルマキールティを指す形容句として広く使われるため写本の読みを採用した。
- 37 校訂本では写本の読み「根」(rtsa)を「草」(rtswa)に改めた。後者は新出版本にも支持される。同様に、タクツァン翻訳師著『宗義書自註』中観章に引用される同偈およびテンギェルに複数回見られる表現によっても支持される。

- 38 校訂本の読み *gyis* は *kyis* の誤り。
- 39 *nmam 'gar gnas 'dod dang* という表現については他文献に用例を見出すことができなかったが、*nmam pa 'ga' zhid du gnas par 'dod pa dang* 「[対象が] 何らかの形で存在すると主張する者と」を短縮した表現として理解した。『書簡大註』(329.6-7) はこれを、「[対象が] 究極の了義として存在する」(*nges don mthar thug tu gnas pa yin*) と解釈する。
- 40 「正しい認識手段によって」(*tshad mas*) は新出版本と『書簡大注』の読み。それにたいして写本は *tshad ma* と読む文脈上および構文上の観点から採用できない。
- 41 「恐るべき大悪魔」(*gdon chen mi bzad*) という読みは新出版本の読み。校訂本では、写本 (*gdon chen mi zad*) および『書簡大注』(*mi zad gdon chen*) の「無尽の大悪魔」という読みを訂正した。この訂正は新出版本によって裏付けられた。
- 42 「捕らえられる」という語について、新出版本と写本は *zin pa* と読む。『書簡大注』は *bzung ba* と読み、語形が異なるが、意味する所の方向性は同じである。
- 43 第12偈はトルンパの『教説階梯大論』(437b7-438a1) に類似する表現がみられる（「有と無のいずれかが論理によって存在すると説くならば、極端な見解という大悪魔によって捕われので、中道から遠ざかる」、*yod pa'am med pa'ang rung 'ga' zhid rigs pas gnas par smra na mthar lta ba'i gdon chen pos zin pas dbu ma'i lam las thag ring ba nyid do*）。加納2007: 52、注53参照。
- 44 新出版本の読み「さまよい」(*'khyams*) は、写本では「退き」(*nyams*) とある。
- 45 「砂漠」(*mya ngam*) は新出版本と『書簡大注』の読み。これに対して写本は「憂い」(*mya ngan*) と読むが採用し難い。新出版本「渺然たる[砂漠]の中に」(*thang chen nang du*) は写本では「広漠たる[砂漠]に」(*rgya chen thang du*) とある。
- 46 14偈 a句にはウメ字で行間に次の角括弧内の補語が版本に記される。*sgyu ma gnyis med [pa'i dbu ma pa dang] chos kun [rab tu] mi gnas dbu ma pa'i ||*
- 47 「部分について分析する知によって」(*cha la nmam dpyod blos*) は新出版本と『書簡大注』の読み。写本は「諸部分を分析する知によって」(*cha nmams spyod pa'i blos*、*spyod* は *dpyod* の誤り) と読む。写本が誤字を含む点を除けば内容的にはほぼ同義である。
- 48 新出版本と写本は「真実としての否定は存在しない」(*yang dag bkag pa med nyid*) と読む。『書簡大注』は「真実として否定されること」(*yang dag bkag pa de nyid*) と読む。
- 49 写本は *ma grub na* と読み少し異なるが、いずれにしても次の句の *de tshe* に繋がるため、どちらの読みも条件節として理解できる点で、内容に大差は生じない。
- 50 新出版本の読み「否定されたものは」(*bkag pa*) に対して、写本は「否定」(*dgag pa*) と読む。
- 51 「抛り所を離れており」(*rten bral ba*) は新出版本と『書簡大注』の読み。写本は「抛り所を離れるならば」(*rten bral na*) と読む。否定対象が成立しなければその否定には根拠がなく（「抛り所を離れている」）、それゆえ否定対象は認識されないということを第19偈は述べるので、写本の読みは文脈上採用し難い。
- 52 *mdun na* は新出版本と『書簡大注』の読み。写本は *mdun du* と読む。
- 53 新出版本の読み「否定されたもの」(*bkag pa*) に対して、写本は「否定すること」(*dgag pa*) と読む。

- 54 「洗い流したとき」(sbyangs pa de'i tshe) は新出版本と『書簡大注』の読み。写本の読み sbyangs pas de'i tshe は構文上の理由で採用し難い。
- 55 「それこそが」(de ni) は新出版本と写本の読み。『書簡大註』の「そのとき」(de tshe) という読みも採用可能であるが、校訂本では『宗義蔵』および『法界蔵』の読み(de nyid)と類似するという理由で写本の読み(de ni)を採用した。これは『教説階梯大論』(510b6)の読み(de ni)によっても裏付けられる。
- 56 新出版本の読み yin に対して、写本は so と読む。
- 57 第 26 偈は『教説階梯大論』(512a3-4)に引用される。
- 58 新出版本および『書簡大注』の読み「比喩によって」(dpes) に対して、写本は「比喩が」(dpe) と読むが採用しない。
- 59 新出版本の読み「利他の心によって」(gzhan phan yid kiyis) に対して、写本は gzhan phan nyid kyi と読むが採用し難い。
- 60 「移してから」(bsgyur nas) は暫定訳である。通常、「訳してから」と訳すべき語である。しかし本書は、ロデンシェーラプがもともとチベット人のためにチベット語で記したテキストであると予想されるので、チベット語の原本をチベット語に「訳す」というのでは意味が通らない。また、版本冒頭には「インド語で」として本書のサンスクリット名が示されるが、この頭書きは翻訳文献に倣ったチベット撰述テキストに現れる常套句でもあるので、この頭書きが本書のサンスクリット原本の存在を示す根拠にはならない。それゆえ、インドの伝統に則った内容の書を、チベット語で著作したその行いを bsgyur と呼んでいると暫定的に理解した。再考を要する。
- 61 『書簡大注』347.6-348.1 には bsgyur nas 以下の新出版本に出て写本に欠如する語が確認される：gsung pa mthar phyin pa'i bya ba ni | **de ltar** sogs gzhung ji lta ba bzhin te | 'dir **sems bskyed** kyi **cho ga** gsar du **bsgyur nas springs pa** de ni spyod 'jug gi lugs ji lta ba bzhin mdzad pa | slob dpon dgra las mam par rgyal bas smon 'jug stabs (p. 348) gcig tu len pa'i tshul **yi dam blang** chog tu grags pa yin la | de la sa skya pañḍi ta'i lugs kiyis dbu ma lugs kyi sems bskyed ces gsung ngo ||、「第3、著作完了の所作、「以上のように」云々(28 偈)は、テキストの通りであり、ここで「発心の儀軌を新たに[チベット語に]移して」(29 偈)、書簡として宛てたそれは、『入中論』の流儀の通りに著作なされたものである。軌範師ジターリが誓願[発心]と進趣[発心]を一挙に受持するやり方を、「誓願受持の儀軌」と呼んでいるのであり、それをサキャパンデイタの流儀は、中観の流儀の発心と仰ったのである。
- 62 何らかの整理番号とみられる。
- 63 以下、丸括弧内の語はウメ字で下の行に補筆されるものを示す。
- 64 ロデンシェーラプの四大弟子の一人 Zhang tshes spong ba Chos kyi bla ma を指すか。チャバ・チューキセンゲの『宝性論』注の奥書によると、チャバはこの人物から『宝性論』の教えを授かったという(sha kya'i dge slong **chos kyi bla ma**'i zhabz kyi rdul phyi bos nod pa dge slong chos kyi seng ges nye bar sbyar ba rdzogs s-hyō ||)。同人物の『宝性論』注釈は存在が知られるが散逸している。Kano 2016: 299 n. 58.